

こどもの救急〈生後6か月から年長くらいまでのお子さん〉

夜間や診療時間外に体調が悪くなった時の対応のヒントを紹介します。

保育園や幼稚園に通い始めると流行性疾患に罹患する機会も増えます。下記を参考に病院や救急でんわ相談に問い合わせましょう。

発熱

生後6か月ころにはお母さんから移行した抗体がなくなり、外出の機会も増えるため風邪をひきやすくなります。発熱以外に目立った症状がなく、活気があり水分を十分に取れるようなら診療時間を待ちましょう。

咳・鼻水

普段通り食事や睡眠がとれている場合は診療時間まで待ちましょう。咳き込んで嘔吐することを繰り返したり、ゼイゼイしていて眠れない時、呼吸苦の訴えがあるときは受診をお勧めします。

嘔吐・腹痛

頻度の高い原因は感染性胃腸炎です。活気があって嘔吐の回数が少ない時は診察時間まで待ちましょう。おなかを痛そうにして何回も泣く、腹痛のため目を覚ましてしまう、嘔吐を繰り返す、などの場合は受診をお勧めします。

頭痛

発熱しているときはそれに伴って頭痛がみられることがあります。解熱鎮痛薬を使ったり、頭を冷やしたりしましょう。強い頭痛がみられるとき、お子さんの活気がないとき、嘔吐を伴うときは受診しましょう。

けいれん

小さなお子さんの脳は未熟であり、さまざまな原因でけいれんを起こします。代表的なものに、発熱に伴う熱性けいれんや、胃腸炎に伴う胃腸炎関連けいれんがあります。短時間でけいれんが止まって意識が戻る場合は自宅で経過をみていただくことが多いのですが、一度診察を受けることをお勧めします。5分以上けいれんが続いている、意識が戻らない、などの場合は救急車を使うなどして急いで受診しましょう。

誤飲（異物を誤って飲み込むこと）・誤嚥（異物が誤って気道内にはいること）

小さなお子さんはいろいろなものを口に入れてしまいます。誤飲の頻度の高いものには紙やシール、医薬品、たばこ、硬貨、電池、洗剤などがあります。飲んだものにより対応が異なるため、中毒110番や病院に相談しましょう。受診時に誤飲したものをお持ちいただくと参考になります。異物が気道に入ると窒息することもあります。豆類や小さなおもちゃによることが多いので気を付けましょう。日頃から母子手帳などについている誤飲チェッカーで身の回りの物の大きさを確認する習慣をつけましょう。

最後に 小さいお子さんの診察には生まれた時の情報も大切です。ぜひ母子手帳をご持参ください。通園しているお子さんは園で流行している感染症がないかどうか確認しましょう。